

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270600457		
法人名	社会福祉法人 さゆり会		
事業所名	グループホームひだまりの舎	ユニット名	
所在地	長崎県五島市下大津町550番地4		
自己評価作成日	2024年 6月 20日	評価結果 市町村受理日	2024年 8月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報 リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topijeyosyo_index=true
--------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フロー薬院2F		
訪問調査日	2024年 7月 25日	評価確定日	2024年 8月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

私たちは利用者様にとっての“心地よい光・そよ風”必要なときに必要なだけのケアにこだわっています ひだまりの舎の理念を実践につなげるための自立支援「その人らしい人生を過ごしていただく」ために入居者様とスタッフが共に支え合えるような生活を目指しています。
① 利用者様の潜在的な生活能力の発見と向上支援 ② 利用者様本位のケア ③ 地域とふれあえる生活の提供
事業体制・・・交流などコロナ禍により中断していた。令和5年末から交流会など開催している。 ① 隣接の保育園児との日常的なふれあい ② 併設事業の利用者様との交流 ③ 24時間体制での医療連携体制

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホームひだまりの舎”は五島市下大津町にある。系列の保育園が隣接しており、子ども達の元気な声を聞くことができ、海を眺めることもできる。施設長（管理者）を中心に職員は結束し、特定技能制度で外国人職員も活躍されており、全職員の介護レベルの向上に繋げるための教育体制を整えている。施設長は複合施設全体を統括する立場にあり、個々の事業所の運営状況に気を配り、職員同士の連携、多職種連携のあり方などを含めた細やかな調整と改善を続けている。医療連携も密に行われ、必要時に往診して下さる医療機関もあり、訪問看護師も24時間訪問して下さる。重度化されている方が増えている中、日々の生活では「福笑い作り」「豆まき」「クリスマス会」「誕生会」「スイカ割り」「ミニ敬老の祝い」等の楽しみを増やしており、利用者の方々の生活リズムと日々の過ごし方に考慮しながら、座位の可能時間、離床時間、安楽な過ごし方等を職員全員で検討し、個別ケアに繋げている。ご本人の詳細なアセスメントが行われ、介護計画を作成し、日々実践している。「その人らしい生活」の実現は永遠の課題と考えており、今後も更に尊厳をもって潜在能力を引き出せるような支援に取組まれていく予定である。
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取り組みの成果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取り組みの成果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、 不安なこと、求めていることをよく聴いてお り、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと 過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで 暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業 所の理解者や応援者が増えている（参考項 目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで 生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ 出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に 応じた柔軟な支援により、安心して 暮らしている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員の目のつく場所に掲示し、職員会議においては、利用者様の立場を意識することなどの話をしながら実践できるようにしている。	『私たちは、利用者様にとっての「心地よい光・そよ風」のように“必要なときに必要なだけ”本物のケアを提供します』という理念を大切にされている。特定技能外国人の職員にも、日々のケアの中で理念の理解を深めていけるように努めており、他の職員と同様に着実に介護技術の向上に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍においては施設内でのふれあいが困難となっていたが、施設周辺の散策を行い地域の方と触れ合うことや園児との交流を徐々に再開している。	ホーム前の「こもれび保育園」との交流が再開し、ホームで踊りを披露してくださり、今後も季節行事を一緒に行う予定である。地域の回覧板も回ってきており、今後もホームの便り等の回覧を検討していく予定である。老人会グランドゴルフ大会の際は管理者が挨拶に行き、ホームから景品などをプレゼントしており、老人会の方が老人会の畑で収穫した芋を差し入れて下さった。コロナ以前は地域の清掃活動、地区絆づくり事業への協力、地域の老人会の方とペタンク大会で交流したり、福江みなと祭りや“へとまと”、花まつりに参加し、楽しい時間を過ごされていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所相談は、年々多くなりその際は、状態に応じた対応方法や考え方の助言、専門機関等の紹介など丁寧に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染防止対応の理解や入居者の事故防止に関する取り組みなど	2020年以降は書面会議でホームの取組みを報告していたが、2023年度以降は市内の感染状況に応じて、集合での開催を再会している。集合での会議の際は、意見が出やすいように一方的な報告にならないように努めており、書面会議の際は民生委員等には書類を持参し、情報交換を続けている。返信用に「報告確認書」を同封し、運営状況報告書を基に参加者から意見を頂いている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村への運営推進会議へ参加していただいたときは、他のホームの取り組み状況など教えてもらうようお願いをしている。	管理者が市役所に訪問する機会が毎月あり、情報交換している。2024年2月は五島市ノーリフティングフェスタに参加し、更なる市内の取組み状況の共有を行うことができた。五島市とハローワークからの依頼で、求職者への高齢者事業所の紹介依頼があり、管理者が介護の仕事の紹介をさせていただいた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のための指針を定め身体拘束適正化委員会において検討会や研修を行い、理解や意識の向上に努めている。	職員個々のストレスを理解し、管理者が職員との面談を行っている。「利用者の立場になって関わること」「自分を守るための心のゆとり」「回避するための心得」「ご本人が混乱時の対応」等を含め、現状に即した研修を続けている。リスクマネジメント委員会で「身体拘束廃止」「虐待防止」の委員会があり、研修も行われており、今後も各委員会の記録を明確にしていく予定である。ご本人の行動に対し、「何か理由があるのでは？」という思いで解決策を検討し、医療機関や家族との情報交換を続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連の研修があれば参加している。また、e-ランニングによる講話を受講してもらい意識の向上と回避手段を理解するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度利用者1名、生活歴も定かでない。落ち着いて生活していけるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約、重要事項等は時間をかけて説明している。また、パンフレットにはよくある質問Q&Aを掲載し何度でも確認できるように配慮している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍により集合型の懇談会の開催は出来ておらず、状況を見て再開していきたい。	市内の感染状況に応じて、居室での面会、ドア越しの面会とともに、電話や手紙等で家族と暮らしぶりを共有している。島外に住む家族もおられ、家族が相談しやすい関係作りに努めている。「法事に連れていきたい」という家族の希望があり、3時間の外出で、食事を一緒にできた方もおられる。管理者が主になり、家族の相談に親身に応じている。コロナ以前は家族も一緒に「年忘れ会」を楽しんでいた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体として職員提案規程を定めており周知している。また、各職員から随時意見を吸い上げるよう日ごろから聞いている。	年1～2回の個別面談を継続し、職員間の考えや思い、職員の関係性などに配慮している。仕事としての「より良いチーム」になってきており、職員のアイデアを活かし、実践できるようにサポートしている。職員の腰痛予防対策（ノーリフティングケア）にも取り組み、骨盤ベルトの貸与も行われ、骨盤ベルトの使用とベッドの昇降等により負担軽減と事故防止に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を設けており職員採用時に制度の説明を行い法人全体で取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で取り組んでいるプリセプター制度をもとに教育を実践している。新任、中堅職員研修の実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し研修情報、制度関係情報を得ている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当初から環境になじめるケースは、ほぼない。ご家族の協力と本人の訴え、要望など本人の不安を取り除くための雰囲気、声掛けには統一が図れるよう努力している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	経済面や家族内での他の心配事などにも耳を傾けるよう努めている。サービス導入や変化が生じた場合などその都度連絡し対応するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の習慣、楽しみ、過ごし方など興味が持てるような支援に努め「本人の心」が動きご家族の意向にマッチングできるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者様の能力に応じて新聞折りをお願いしたり、雑談することを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や自宅の事が気になるときなど、ご家族に連絡を取り、面会などお願いしている。通院や買い物などできる範囲でお願いし、共に支えあう体制をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	継続的な支援となっているケースはありません。	入居者の生活歴や馴染みの場所等を把握している。住み慣れた地域をドライブし、地域のことを教えて頂いたり、正月は馴染みの神社（ホーム隣）に初詣に行かれている。老人会から敬老祝い品が届いており、友達が遊びに来て下さり、玄関の外で会話を楽しまれた方もおられ、家族と法事に行かれた方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の重度化が著しく利用者間でのコミュニケーションが成立しないため職員が話に介入したり、レク等で触れ合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケースなし。 長期入院等で契約が終了する場合などは、本人様、ご家族様へ面会し、近況を伺うようにしています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、ご自宅等で生活の役割、習慣、好きな事、出来る事などGHでも継続するための提案、支援を行っています。	ご本人と家族の思い、要望を確認している。生活歴や特技等も把握し、ご本人の望む暮らしになるように努めている。入居時に自宅訪問することもあり、ホームでの生活に活かしている。意思伝達が難しい方もおられ、職員が優しく声かけし、「食べたい」「食べない」「休む」などを頷きで意思表示してくださる方もおられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、担当だったケアマネなどに話を伺い把握に努めている。本人の馴染みのものなど、可能な限り持って来てもらうようお願いしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の些細な変化には注意して職員間で共有し、変化に対応するよう努力しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時に生活状況等を報告し、各介護職員意見を確認したうえで、ご本人の意向を第一に尊重するようにしている。	ご本人の生活歴や意向を大切にされており、言葉にできない思いを丁寧に推察し、ご本人本位の計画作りを続けている。ご本人や家族、主治医、訪問看護師、セラピスト等の意見も反映し、適宜、サービス内容の変更をしている。24時間シートには「生活のリズム」「意向・好み」「自分でできること」「サポートが必要なこと」「気づいたこと・注意点」を記載し、自立支援を大切にされたケアが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援記録システムを活用し申し送りや日常の気づきなどホームスタッフでの共有はもとより施設全体として情報発信ができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時折発生する不穏症状に対しては、その日の職員業務プログラムを変更しできる限り対応するようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	最近、併設の通所介護利用者がホームの廊下で歩行訓練をする際、話しかけてもらえたり、デイホールへの訪問を行い交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿った病院を受診できるよう支援をしている。体調変化がみられた際にも、救急の場合を除き、必ずかかりつけ医への相談をしている。	入居前のかかりつけ医を受診する方が多い。職員が通院介助し、病状に応じて管理者が主治医と密に情報交換し、家族も一緒に主治医の説明を聞かれることもある。聖マリア病院との更なる医療連携が始まり、管理者・職員などが月1回、日々の体調等の情報交換をしている。往診ができる医師、歯科医師もおられ、訪問看護師・系列施設の看護師・理学療法士等からアドバイスを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師による日々の状況変化等その都度報告。気になる事や対応が困難なことがあれば、その状態に応じて24時間の連絡、対応体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供書、主治医、セラピスト、医療連携室との密な連絡とご家族の意向を踏まえスムーズな退院と退院後の支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、看取り介護指針に沿って説明と、本人・家族の意向をきいている。ご家族様の不安を軽減するためにご本人様の状態の変化をその都度報告し、時が訪れた時の心の準備、その後の対応について助言している。	重度化している方が多く、ご本人の体調変化の都度、意向確認し、体調変化に応じて主治医と話し合いをしている。「最期はここで」と希望する方もおられ、家族も一緒に誠心誠意のケアが行われている。往診可能な先生がおられ、24時間の連絡相談もできる。訪問看護師とも連携しており、看取りケアの勉強会も続けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員でAEDの使用方法を確認するとともに緊急連絡体制を周知している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害対策による緊急時の避難体制や避難場所、行動計画の作成はおこなっているが、実践による避難誘導訓練はできていない。	法人全体でBCP（事業継続計画）を作成し、施設独自の計画も作成している。施設全体で夜勤者は2人勤務し、協力体制もある。施設内（サ高住を含む）で年2回、昼夜想定総合訓練を行い、避難時間も測定している。災害に備え、飲料水、フリーズドライ保存食品6種類（約240食分）等、簡易ガスコンロ5台等とともに、自家発電もあり、漏電遮断器も設置している。飲水に使用できる温水器内の水が3トン程度は常時ある状況である。災害時は市民センターに避難予定で、系列施設との協力体制もできている。	2020年2月に消防署・消防団(2分団)と訓練が行われ、その後は施設内の事業所職員、利用者、防災管理会社と訓練を続けてこられた。今後も感染状況に応じて、町内会長、民生委員等も含めた地域の方々、消防団、消防署の方々と一緒に訓練を行い、BCPに基づいた研修に繋げていく予定である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	信頼関係をつくり、その人の立場に立って常に考え利用者様の自尊心や羞恥心・プライドを損なわない声かけ・対応に努めている。	日頃は「〇〇していただけますか?」と問いかけ、できる限り強要しないケアを心がけている。五島の馴染みの方言を使いながら、丁寧な言葉遣いに努め、居室やトイレのドアを閉め、羞恥心の配慮をしている。年1回、倫理や情報保護等の勉強をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の理解・判断能力に応じて、自己決定がしやすいよう選んでもらうような問い方になるよう注意して支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴拒否、食事拒否、その場の本人の心理状態に合わせ声掛けの時間を調整するなど本人の状態に合わせて調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様が選んだ服を着れるよう支援している。職員と服を選ぶ際にも、確認をとりながらおこなっている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できる利用者がいない。	主食と汁物、刻み食等はホームで作り、副食は配食事業所で調理し、ムース食や柔らかい食も作って下さる。盛り付けはホームで行い、キャベツ等の野菜を追加する時もある。食事介助が必要な方が多く、食事前に嚥下体操を行い、冷たい水を口に入れ、嚥下反射を促すようにしている。食事中に咳き込む方が複数おられ、感染対策を含めて窓際で食べて頂くなどの工夫をしており、ご本人が寂しくないような配慮もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人のケア記録簿に毎食の食事量・水分量を記録している。起床時の水分補給、食事、おやつなど1日に個別に1000～1500mlの目標としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは実施している。義歯を取るのを拒むときは無理をせず状態に応じて対応している。また、必要に応じて訪問歯科診療を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握、トイレ誘導のタイミング、行動、その状況に応じた誘導方法を統一し本人の能力を最大限に引き出すように意識して支援している。	トイレでの排泄を大切にされている。布の下着を着用し、自立している方もおられるが、介助が必要な方が多く、排泄状況等を確認し、個別誘導している。トイレと脱衣場、浴室が繋がっており、入浴時の排泄対応に配慮できている。居室でオムツ交換をする方もおられ、職員間で情報交換し、同じケアができるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分補給、食後の寒天ゼリー、好みの飲み物で水分量の確保。車椅子の方には歩行訓練の実施や食事前の体操。また訪問看護師と相談しながら予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の配置上時間帯に関しては難しいところもあるが、できる限り本人の意思を尊重している。	入浴時は職員との会話を楽しまれている。ボード等の福祉用具を活用し、湯船に入れる方もおられ、職員が声かけすればできる所は洗って頂いている。入浴を拒む際は声かけを工夫し、無理強いをしないようにしており、職員が交代したり、時間をおいて再度ご案内している。日々、陰部洗浄を行い、清潔保持に努めている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室での休養を希望される方は、ゆっくり休むことができるよう、室温や照明など一人一人にあわせて調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一包化は基本、名前、日付、時間の記載。処方箋の内容書類はすぐ確認できるように保管している。処方の変更があった際には、薬剤師から直接説明を受け、全員職員が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の重度化により楽しみを導き出すことに苦戦している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	短時間の外出ではあるが、施設周辺の散策を行い、敷地内のこども園の園児が遊ぶ姿を見たり、地域の方とすれ違う時は、声掛けしてもらえることがある。	車いすの方も一緒に散歩をしながら、海を眺めたり、園児の遊ぶ姿を見て楽しまれている。季節の花見（桜・コスモス）の時にお茶会をされたり、ドライブなどにお連れしている。コロナ以前は近くのオサダや椿屋に買い物に行き、お菓子などを購入し、支払いをして頂いたり、家族と一緒に墓参りや自宅に行かれる方もおられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持したい要望がある利用者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	対象利用者がいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調の風が直接当たらないよう工夫した。	ホーム内は広く、廊下を挟んで2つのリビング（食堂とデイルーム）がある。それぞれのフロアにテレビがあり、好きな場所で過ごされている。体操やレクの時間もあるが、季節の飾り付けが混乱の要因になる方もおられ、症状に応じて飾り方を工夫し、物の置き場所等も配慮している。空気清浄機を3台増やし、換気も続けている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が食道とデイルームに分かれている為、利用者が自分の好みの場所で過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前には、ご家族様へは、ご自宅で過ごしていた時の空間になるように持ち込み品など考えていただくようにしている。持ち込んでくれる方は少ない。	雨風の影響による防湿対策とともに、壁や天井の張替え等も定期的に行っている。居室の窓は掃き出しで、災害時の避難がしやすくなっている。自室を認識できない方は居室入口に名前を大きく書いており、全居室に電動ベッドを備え付けている。テレビ、ラジオ、カラーボックス等を持ち込まれ、ご自分で描かれた水彩画（五島の風景等）も飾られており、プロが使うスケッチブックと色鉛筆を管理者が準備し、いつでも絵を描ける環境が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒することを前提にベッド周囲の床にはクッション材を敷くようにしている。		